

真田地域協議会 分科会 協議報告

平成 29 年度 第 3 分科会

分科会協議テーマ 「地域が一体となった観光振興」

役 職	委員氏名	自治センター
分科会長	松本 規男	塚田地域振興課長
副分科会長	高寺 由美子	桜井産業観光課長
	関 千恵子	越上下水道課長
	竹倉 征祠	春原地域政策担当主査
	鶴岡 政明	
	宮島 国彦	

1 はじめに

真田地域においては、一昨年大河ドラマ「真田丸」の放送を契機として、「真田の郷」の知名度がこれまでにない高まりを見せました。一方、菅平高原では、「2019 ラグビーワールドカップ日本大会」や2020年の東京オリンピック・パラリンピックなど、今後開催される国際的なスポーツイベントのキャンプ地誘致により「世界の菅平」への飛躍を目指しています。これらの機会を真田地域への追い風として捉えて、地域が持つ魅力の継続した情報発信による、更なる観光振興が求められております。

第3分科会では、第二次上田市総合基本計画に「真田地域の取組の方向性」として掲げる『地域資源を生かした観光振興』を推進するためには、真田地域が一体となった観光振興策を構築する必要があると考え検討を進めてきました。

検討では、観光に欠かせない「食」に焦点を当て、真田地域の観光振興に「食」を結び付ける方策を中心に議論を重ねました。

[注：本協議報告では、地域を分かり易く表現するため、菅平高原を除いた真田地域を「真田の郷」と表記しています。]

2 現状と課題

(1) 現 状

大河ドラマ「真田丸」の終了後、徐々に真田の郷を訪れる観光客は減少しており、一昨年の賑わいを一過性のブームで終わらせない取り組みが必要です。

一方、菅平高原はスポーツ合宿のメッカとして広く認知されており、夏・冬シーズンには多くのアスリートが訪れていますが、春・秋シーズンの誘客は長年の課題です。

加えて、同一地域内の「真田の郷」と「菅平高原」ですが、お互いに魅力が活用されず独立した観光を形づくっており、真田地域が一体となった観光振興への取り組みが不十分です。

しかし、現在、上田市では、「2019 ラグビーワールドカップ日本大会」や2020年東京オリンピック・パラリンピック等のキャンプ地誘致に取組んでおり、国内外に「上田市 真田地域」をPRするビッグチャンスが到来しています。

(2) 課 題

ア 多くの市民が、観光資源である真田氏ゆかりの「真田の郷」や自然豊かな「菅平高原」の魅力について、詳しく知らない状況にある。菅平高原で観光に携わる多くの人でさえも、観光地としての「真田の郷」の歴史的な魅力を誘客に生かしていない。

イ 菅平高原を訪れるアスリートや観光客に「真田の郷」の歴史的な魅力を、真田一族に惹かれ訪れる観光客にはスポーツリゾート「菅平高原」の魅力を伝える。両者に、それぞれの目的や期待以上の魅力を感じていただく取り組みを進めることが肝要である。

ウ 真田地域には「食」に関して、「これだ」 - というものが無い。且つ、季節毎の野菜や果物などの素材は豊富にあるが、年間を通じ地産地消を進めるための安定した供給は難しい。

エ 著しい高齢化が進んでおり、遊休農地の増加とともに、農業の担い手が不足している。

オ 真田地域を訪れた観光客が土産品を購入したり、飲食できる場所が少ない。

3 協議報告

協議の過程で出された課題を整理・検討した結果、真田地域の魅力を伝えるために「食」は重要な手段・ツールになると考えられることから、次の取り組みを提案します。

(1) 菅平高原への「2019 ラグビーワールドカップ日本大会」及び2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地誘致活動と「食」を結び付けた観光振興策の推進。

- ・ ラグビーのイタリア代表チームが今年から2箇年にわたり菅平高原を訪れることから、地元の食材や水、酒等を使用して、イタリアにちなんだ菅平高原ならではのメニューを創作する。

その際には、イタリアチームや他の外国人にも安心して食事を楽しんでいただけるよう、オーガニック食材の利用やGAP認証取得などについても検討する。

- ・ キャンプチームのサポーターズクラブなどを立ち上げ、市内外の人々に幅広くチームを迎えるボランティアへの参加を通して真田の郷や菅平高原の「食」を含めた魅力を知ってもらい、情報発信者として多方面に魅力を広めていただく。

また、キャンプするトップアスリートと市民がふれあえる機会を設け、地域の振興施設等を有効に活用して、スポーツの魅力や素晴らしさ、更には、真田地域の魅力にも理解を深めてもらう。

(2) 真田地域の歴史的観光資源を生かした魅力発信とPRの推進。

- ・ 歴史的観光資源とともに、若者や女性を惹きつける企画（ゲームやSNS等）や「真田丸」で高まった知名度を生かした企画を取り入れ、幅広い世代の誘客を図る。

また、真田地域ならではの御当地グルメ（真田産のそばや小麦を利用したメニュー、凍み豆腐、菅平高原牛ステーキ、ジビエの活用等）を開発することで誘客に結び付ける。

- ・ 歴史的な史跡等を訪れる観光客には、ボランティアによる説明や案内とともに、地元食材を使用した素朴な「食」（漬物などの発酵食品等）でのおもてなしを行い、「食」に係る土産品の販売に結び付ける。
- ・ 真田地域には、土産品の購入や食事ができる場所が少ないので、「ゆきむら夢工房」や「新鮮市真田」などの既存施設を活用して、地元産の素材を使った土産品や食事等を提供する場所とする。

(3) 真田の農業と「食」を生かした、6次産業化の推進

- ・ 真田地域は、「七色野菜」と呼ばれる程に多種の食材が生産される地域です。この特性を生かし、様々なドライフルーツやジャム、古くから食される発酵食品（味噌・漬物等）などの商品開発を進め、真田地域ならではの商品開発とブランド化を図り、不足している農業後継者の育成と遊休農地の活用に結び付ける。

- ・ 食の加工体験施設「ゆきむら夢工房」では、遊休農地で奨励して生産したそばや小麦、果実などの加工や体験の活性化を図るとともに、農産物の地産地消の推進と新たな加工商品の開発による6次産業化の更なる進展に努める。

- ・ 農産物の商品開発及び販売に当たっては、地元大学生や料理研究家等と生産者や加工者、販売者の連携を促して、真田産農産物の地産地消及び6次産業化の推進を図るとともに、この地域ならではの「レシピ集」を添えた販売など、消費者の購買意欲を高める工夫にも努める。

- ・ 近年、消費者の嗜好は「高くても安全でおいしい食材」を求めており、小規模農家でも良い品を作れば採算が合うようになってきている。この潮流を背景として、受注生産を推進し「農作物を高く買って、高く売る」仕組みを構築させ、農家の生産意欲を向上させるとともに後継者の育成を図る。
- ・ 菅平高原では、農業体験と宿泊を組み合わせたプランや「真田の郷」の魅力を発信するプラン等を提供することで、新たな誘客に努める。

4 まとめ

今回のテーマである「真田地域が一体となった観光振興」を推進するためには、昨年発足した新たな住民自治組織「真田の郷まちづくり推進会議」をはじめとする、真田町商工会、菅平高原観光協会、JA信州うえだ、さなだスポーツクラブなど、真田地域で活動する各種団体が連携した体制整備が必要です。

加えて、観光振興を図る一つの手だてとして真田地域ならではの「食」を活用するためには、安定した農業生産のための環境整備への支援（新規就農者や転作者への手厚い補助、販路拡大のためのインターネット環境の整備 等）とともに、観光産業との連携した官民一体となった推進体制の整備を図るべきです。

また、真田地域の既存の各種施設を有効活用する取り組みを強力に推進することを要望します。食事や土産品を提供する場所とするとともに、遊休農地で奨励して生産したそばや小麦、果実などを加工販売することで、地産地消と6次産業化に結びつくのではないのでしょうか。

真田地域には、スポーツ合宿のメッカ「菅平高原」をはじめ、真田氏発祥の郷としての歴史に培われた数多くの資源と四季折々の豊かな自然環境など、観光客を惹き付ける様々な魅力が溢れています。この溢れる魅力と真田地域ならではの「食」を結び付けることで、地域の魅力を一層高めることができるものと考えます。